

大村市で全国初開催となるGI開催 「GI第1回賞金女王決定戦」が無事終了

売上額は目標を上回る90億円

去る12月11日～16日までの6日間、発祥の地「大村ボートレース場」において、開設60周年という記念すべき年に全国初開催となる「第1回賞金女王決定戦」を開催しました。おかげをもちまして、盛況のうちに無事終了することができました。

本競走は、1年間熾烈な戦いを勝ち抜いてきた獲得賞金上位の女子選手のみが出場できる競走であり、本開催により女子の賞金王が決定する女子戦最高峰のレースです。

女子レーサーの中で年間の獲得賞金上位者12名だけが出場できる賞金女王決定戦競走と、獲得賞金13位から54位までの42名の女子選手が出場するシ



などにより、多くのお客様で賑わいを見せました。

売上総額は、目標額70億円に対し90億円を達成。目標額

を大きく上回るとともに来場者は2万8千人に上り、全国からお客様を大村市へお迎えすることができました。

この全国初の「GI第1回賞金女王決定戦」開催の経験をもとに、今後のレース運営に活かし、引き続き安定的な経営に努めて行きます。

そして、大村ボートレース場は、今年度から、新スタンドの建設に着手してまいります。「日本一美しく親しみやすいボート場」として、再来年3月のオープンを目指し、全力で取組んでいきます。

開催期間中は、連日、感動的なレースと幾多のドラマが繰り広げられ、最終日の決定戦において、静岡支部の三浦永理選手が初代賞金女王の栄冠に輝きました。

また、場内では、ロンドンオリンピック金メダリストの吉田沙保里さんをはじめ、開催期間中は毎日、有名人のトークショーなど、さまざまなファンサービスの実施



造船業への支援(2)

大村市モーターボート競走事業
管理者 田中 克史

1853年7月、浦賀沖に来航した黒船は、当時の武士や町民を大いに驚かせました。黒塗りの船は外輪と蒸気機関でも航行し煙突からもうとうと煙を吐き上げて威容を誇っています。その姿はそれまで訪れていたロシア海軍やイギリス海軍の帆船とは全く違っていました。

徳川幕府老中阿部正弘は、ペリール来航3か月後の9月には「大船建造禁止令」を解き、幕府自ら洋式帆船「鳳凰丸」を浦賀造船所で起工。一方ではオランダに艦船を発注するなど困惑とあわてぶりがうかがえます。

さて、周囲を海に囲まれた海洋国家、日本の発展は船による物資・ヒト情報の往来なしには成り立ちませんが、各地でさまざまな船が造られました。各地でさまざまな船が造られました。船体の材質は、主に木材、鋼材、FRPに分けられます。今日では、タンカー、自動車輸送船、客船など大型船はみな鋼船ですがその始まりは明治まで待たなければなりません。

縄文時代には丸木船が、飛鳥・奈良・平安時代の遣隋・遣唐使船は船底が平底の箱形構造の船が使用されていますが、まるで箱が海に浮いているようなもので波をうけるとあつてなく沈んでしまうものでした。遣唐使船が4隻なのはどれか一隻でも中国に着くため、まさに命がけの航海でした。(つづく)

2月のレース開催日程

大村
開催

3日～ 7日 公営レーシングプレス杯
14日～17日 真冬の王者決定戦
23日～26日 TURN MARKカップ

ナイター

全日ブルードラゴン、前売場外発売所で発売

場 外

1日～ 3日 GI関東地区戦(江戸川)
1日～ 2日 GI近畿地区戦(三國)
8日～13日 GI住之江周年
8日～11日 オール女子(戸田)
12日～13日 GⅢ徳山
18日～19日 GI戸田周年/GⅢ女子(尼崎)
20日～25日 GIびわこ周年(20日 下関一般)
21日～22日 GⅢ平和島
27日～28日 GI下関周年/オール女子(鳴門)